

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいよう本舗 すいせい組		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象家庭数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 18日		～ 令和7年 2月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	充実した調理環境を活かし、実践的な支援ができる	以前飲食店で使用されていた広いキッチンをリフォームし本格的なガス台やスチームコンベクションオーブンを備えた環境を整えている。この設備を活用しお子様たちが幅広い料理に挑戦できる支援を行っている。また、それぞれの特性に合わせた調理器具を導入し一人ひとりに適した方法で調理に取り組めるよう配慮をしている。調理活動を通じて料理の手順やストーリー性を理解する力を養うとともに調理技術のスキルアップを目指した支援を行っている。	今後はより多様な食材や調理法を取り入れお子様たちが楽しみながら学べる機会をさらに増やしていく。また、食育の観点から栄養バランスや衛生管理についても学べるプログラムを強化し自立に向けた支援を充実させていく。
2	お子様が自己選択できるような支援の工夫	活動の内容を決める話し合いにお子様に参加し、お子様達と一緒に活動プログラムを決め取り組んでいる。お子様の特性に合わせた意思表示の手段の提供や安心して発言できる雰囲気づくりを整えながら、お子様の意見を尊重する取り組みを重視している。	成功体験を積み重ねることでお子様の自信と意欲を高め、活動内容のレパートリーが増やせるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちと交流する機会	地域で行われているイベントが、日曜日開催のものが多く、日曜日は事業所が休みである為参加が難しくなっている。平日は学校やほかの習い事などで、地域の子どもたちと交流する時間が確保しづらい。	事業所が主体となってイベントを企画し、地域住民の子どもたちに参加をしていただき、関わりが増える取り組みを実施する。
2	保護者同士の交流の機会	交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれているため、ニーズに応じた柔軟な対応が求められる。親子レクリエーションの中に保護者会も兼ねているため、交流の時間が少なくなっている。	親子レクリエーションと保護者会を同日で開催し、保護者会では、交流の時間を十分に確保します。また、事前にプログラム内容とタイムスケジュールを保護者の皆様に周知し、交流の時間帯を明確にすることで、参加しやすい環境づくりを目指します。